

第 13 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

日時：令和 8 年 4 月 21 日（火）

午後 5 時 30 分～ 7 時

会場：塩尻総合文化センター 1 階 講堂

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 新構成員紹介

4 会議事項

（1）「第 12 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ

（2）再編実施基本計画の報告

（3）今後の予定

（4）施設整備プロポーザルに向けて

（5）ワークショップ（学びのイメージの具体化に向けて）

5 諸連絡

次回の予定

【日時】 調整中

【場所】 調整中

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第13回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

(敬称略)

区分	氏名 (座長○)	所属等	役職	新構成員
1	石坂 健一	塩尻市	副市長	
2	○佐倉 俊	塩尻市教育委員会	教育長	
3	大池 昌弘	山形村教育委員会	教育長	
4	百瀬 司郎	朝日村教育委員会	教育長	
5	太田 幸一	塩尻市産業振興事業部先端産業振興室	室長	
6	小松 稔	塩尻商工会議所	会頭	
7	林 修一	塩尻市観光協会	会長	
8	渡邊 修	信州大学農学部農学生命科学科	准教授	
9	小林 敏一	エプソン情報科学専門学校	学校長	
10	中島 紀彦	セイコーエプソン株式会社P総務部	部長	
11	横山 暁一	NPO法人MEGURU	代表理事	
12	斎藤 政一郎	松本地域振興局 (代理出席 草間英樹)	局長	
13	赤羽 誠治	塩尻志学館高等学校同窓会	会長	
14	霜田 美奈	田川高等学校同窓会	会長	
15	桃井 則美	塩尻志学館高等学校PTA	会長	
16	堀内 みどり	田川高等学校PTA	会長	
17	北沢 寿明	東筑摩塩尻PTA連合会	顧問	
18	吉越 秀之	東筑摩塩尻校長会代表 塩尻市立桔梗小学校	学校長	
19	高坂 由美子	東筑摩塩尻校長会代表 塩尻市立塩尻西部中学校	学校長	○
20	永田 寛尚	松本支援学校 (旧 松本養護学校)	学校長	
21	小松 大斗	塩尻志学館高等学校	生徒会長	
22	大澤 寧々	塩尻志学館高等学校	生徒会副会長	
23	滝澤 陽向	塩尻志学館高等学校	生徒会副会長	
24	藤田 美蕾	田川高等学校	生徒会長	
25	吉田 武紗士	田川高等学校	生徒会副会長	
26	長谷川 香穂	田川高等学校	生徒会副会長	
27	堀内 雅司	塩尻志学館高等学校	学校長	
28	今井 直哉	塩尻志学館高等学校	教職員	
29	青木 裕士	田川高等学校	学校長	
30	笠原 勇貴	田川高等学校	教職員	

事務局

塩尻志学館高等学校		田川高等学校		長野県教育委員会	
木下 博史	教頭・事務局長	内川 源弘	教頭・副事務局長	田中 聡	高校再編推進室 主幹指導主事
今井 直哉	新校準備委員会構成員 (長)	笠原 勇貴	新校準備委員会構成員 (長)	荻原 洋平	高校再編推進室 主任指導主事
跡部 徹	新校準備委員会構成員 (副)	代田 嘉弘	教務主任	宮嶋 直美	高校再編推進室 主任指導主事
深澤 和加枝	教務主任			宮澤 春菜	高校再編推進室 主事
				宮坂 正義	学びの改革支援課 指導主事

第 12 回 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和7年(2025年)11月11日(火) 午後5時30分から午後6時10分まで		
場所	オンライン開催 塩尻志学館高等学校会議室より配信		
出席 (敬称略、 ◎座長)	石坂 健一、◎佐倉 俊、大池 昌弘、百瀬 司郎、太田 幸一、小松 稔、小林 敏一、中島 紀彦 横山 暁一、草間 英樹(代理)、桃井 則美、堀内 みどり、北沢 寿明、永田 寛尚、小松 大斗、大澤 寧々 滝澤 陽向、藤田 美蕾、吉田 武紗土、長谷川 香穂、堀内 雅司、今井 直哉、青木 裕士、笠原 勇貴 以上24名		
欠席 (敬称略)	林 修一、渡邊 修、赤羽 誠治、霜田 美奈 吉越 秀之、黒沢 幸喜 以上6名	傍聴	4名 報道2社
事務局	塩尻志学館高校：木下教頭(事務局長)、今井教諭、寺澤教諭、酒井教諭 田川高校：内川教頭(副事務局長)、笠原教諭、料治教諭 県教育委員会：原主幹指導主事、荻原主任指導主事、宮嶋主任指導主事		
会議事項	(1) 第11回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 学びのイメージについて (3) 再編実施基本計画(案)について		
当日資料	第12回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会資料		
主な内容 (⇒：事務局回答 / →：県教委回答 / ➡：座長まとめ)			
<p>(1) 第11回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ 質問、意見なし➡承認</p> <p>(2) 学びのイメージについて 前回の懇話会での意見を踏まえて、4ヶ所の表現を修正した。 また、学びの3本柱の②のサブタイトルを「教科の枠を超えて広がる教科横断型“未来探究授業”」と変更し、新校で想定される系列とその掛け合わせによって考えられる学びのキーワードを配置した。図は塩尻の地を想起できるようドウをモチーフにデザインした。</p> <p>【質問・意見】 ・前回の「多様な学び」の部分を「多様な学び方」としていただきありがたい。多様な生徒への支援という観点からも、一人ひとりの学びの不得手さを補いながら学ぶ方法という意味も含めて「多様な学び方」という表現がよい。 ➡承認</p> <p>(3) 再編実施基本計画(案)について 「5 学びのイメージ」について、前回からの変更点はなし。</p> <p>質問・意見なし➡承認</p>			
その他			
<p>【次回懇話会】 ・期日：未定 ・議題：未定 日程等、調整が済み次第、開催通知にてお知らせする。</p>			

塩尻総合学科新校（仮称）再編実施基本計画

1 再編統合対象校

塩尻志学館高等学校、田川高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 15 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 15 年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

塩尻志学館高等学校

新校が目指す学びのイメージである「地域を学びのフィールドとして、地域との共創を目指す学校」「多様な経験、学び、人との出会いを通して一人ひとりの可能性を広げられる学校」を実現することがより期待できる環境であるため、塩尻志学館高等学校の校地・校舎を活用することが適切であると考えられる。

4 設置課程・学科及び想定する募集学級数

全日制課程 総合学科 6 学級程度

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

総合学科のシステムを使いながら、持続可能な社会づくりの担い手を育てていくための多彩な教科・科目を開設する。

募集学級数は、旧第 11 通学区の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 6 学級程度が想定される。

5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

自らの興味や関心に応じて学びを選択し、地域に開かれた学びの場で様々な課題に挑戦し、自身の未来を切り拓くことができる総合学科高校を構想する。

6 施設整備

新校の学びに必要な施設を整備するとともに、既存施設の著しい老朽化と社会や学びの変化を踏まえ質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間 10 年程度を想定

学びを選び、塩尻で挑み、未来を拓く総合学科

**目指す
自分像**

- 自身の軸を持ち、自ら課題を見つけ、価値を創り出す挑戦ができる自分
- 豊かな心を育み、他者を尊重し、互いを高め合いながら協働できる自分
- 粘り強く学び続け、自身の道を切り拓き、地域の未来を支える自分



**目指す
学校像**

- 多様な学びを通じて、自分らしさを伸ばし、心豊かなウェルビーイングを実現する学校
- 地域を学びのフィールドとして地域との共学共創を目指す学校
- 生徒が主人公となり、社会とともに成長し続ける学校

学 び の 3 本 柱

**① ワクワク！
多彩な学び**

人生を豊かにする学びが
ここにある

【表現・感性を学ぶ】

- ▶ 音楽・美術・書道・演劇などを通じた総合芸術、アーティストとの創造活動

【言語を学ぶ】

- ▶ フランス語、中国語、ハングルなどから始まる国際交流

【ICT 活用を学ぶ】

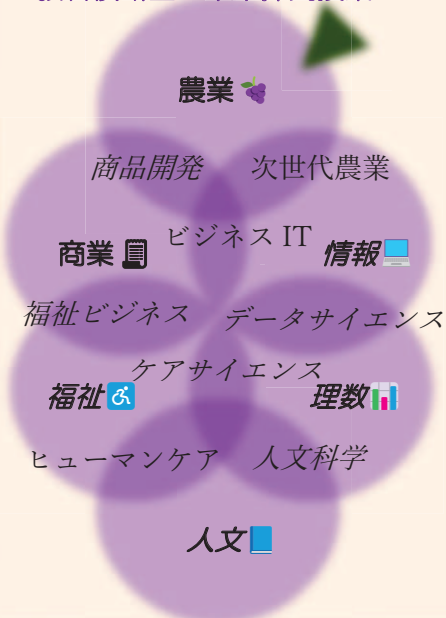
- ▶ プログラミング、マルチメディア、データサイエンス

【生活を学ぶ】

- ▶ 農業、商業、家庭、福祉など人生を豊かにする科目

**② ひろがる！
未来と探究**

教科の枠を越えて広がる
教科横断型“未来探究授業”



**③ つながる！
地域とキャリア**

地域に開かれた学びの場で
地域とつながる

【産学官民連携】

- ▶ 「シオジリ学」
⇒ 地域課題解決型学習
「起業家育成プログラム」
⇒ 地域の未来を担う人材育成、事業創出
「ワインバレー構想」
⇒ 地場産業との連携

【小中高連携】

- ▶ 小中高一貫カリキュラム
- 【開かれた学び】**
- ▶ ブドウ収穫体験、地元の専門家・農家による公開講座、車座の対話

のびやかに学ぶ環境

❖ 主体的な学びを促すゆとりある時間割と柔軟なカリキュラムで、多様な学び方を実現。深い学びを通じて確かな学力を育み、大学等進学へとつなげる。

❖ 地域交流や地域連携に対応できる快適で柔軟な学びの空間を整備する。

クラスを越えて出会える活動の機会、活動の場所がある～生徒が主人公「私は私の人生の当事者」～

❖ 異学年交流により多様な視点を育み、思いやりや協調性、自ら考え行動する力を育てる。

❖ 仲間と支え合い、失敗からも学び続けられる温かな雰囲気醸成する（職員サポーターズシステム）。

学 び を 支 え る 仕 組 み

地域の方々との共同開発

新校が生涯学習の出発点

地域共学共創コンソーシアム

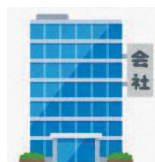
各種学校

医療・福祉関係

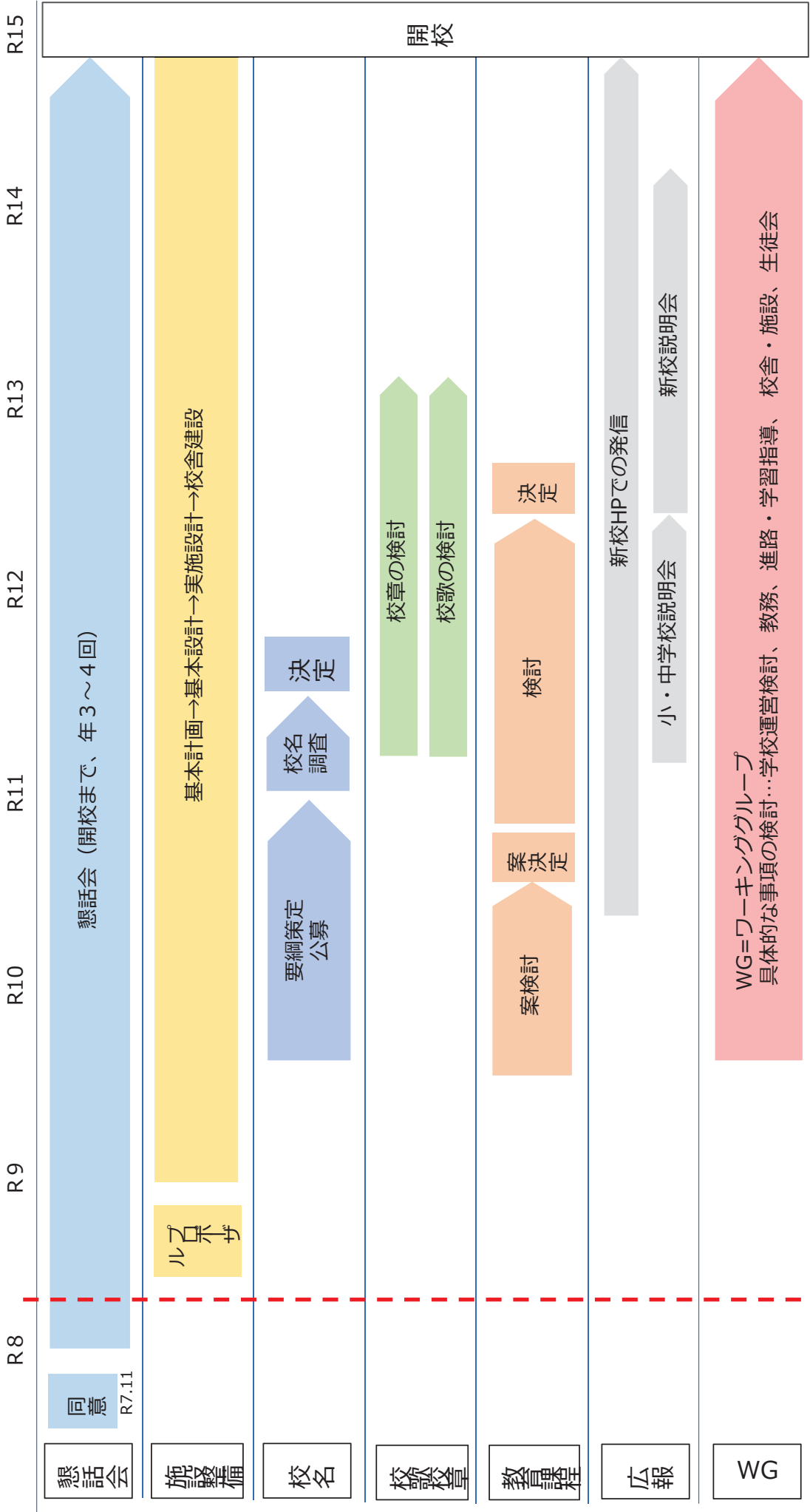
地元企業・商工会

自治体

研究機関



塩尻総合学科新校の開校までのロードマップ（イメージ図）



1. 【塩尻総合学科新校】今年度の予定

月	施設整備	事務局会	懇話会
2	プロポーザル準備	第 17 回 (17 日) 予定確認 プロポーザル説明 他	
3	審査員長視察(3/23)		
4		第 18 回	第 13 回 (4/21) ・プロポーザル概要説明 ・ワークショップ 他
5		第 19 回	学びのイメージの 具体化
6		第 20 回	
7		第 21 回	
8	プロポーザル公告		第 14 回
9	提案者による現地視察		・ワークショップまとめ ・学びのイメージの具体化に ついて 他
10	一次審査（非公開）	第 22 回	
11	二次審査（会場：塩尻志学館		
12	公開）、契約		
1		第 23 回	第 15 回 ・提案書説明 他
2			
3			

2. その他

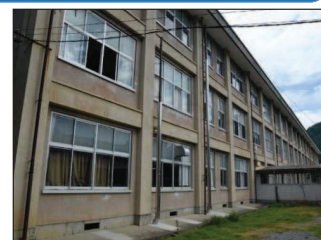
- ・上伊那総合技術新校のプロポーザル審査の YouTube 動画が県教育委員会の HP 掲載されているのでお時間あればぜひご覧ください。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/koko/puropo/nsd-kamiina.html>

NSDプロジェクトとは【NSDの背景】

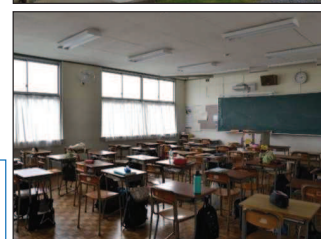
学校施設の現状 → 画一的な学習空間で、老朽化も激しい

1950年 文部省（現文部科学省）・日本建築学会
「鉄筋コンクリート造校舎の標準設計」を作成



長野県の県立学校でも、似たつくりの校舎が多数存在

しかし、この70年ほどの間に社会は大きく変化



教室棟（1968年建設）

施設の老朽化による学校施設の適切な更新を進めると共に
「学び」や「学び方の変化」に伴う学校の「つくり」や「つくり方」を見直し
これからの時代 これからの学びにふさわしい学校空間の整備が必要

県立学校学習空間デザイン検討委員会

最終報告書「長野県スクールデザイン2020」（2020年8月）

これからの時代：変化が激しく予想困難な時代

1 どんな時代や状況にも対応できる、フレキシブルな空間

これからの学び：主体的な学び、探究的な学び／個別最適な学び、協働的な学び

2 いろいろな学び・さまざまな人数 ⇒ 多様性をもつ学びの空間

学習空間の捉え直し：生徒・教職員・地域にとって必要な要素を包含した施設

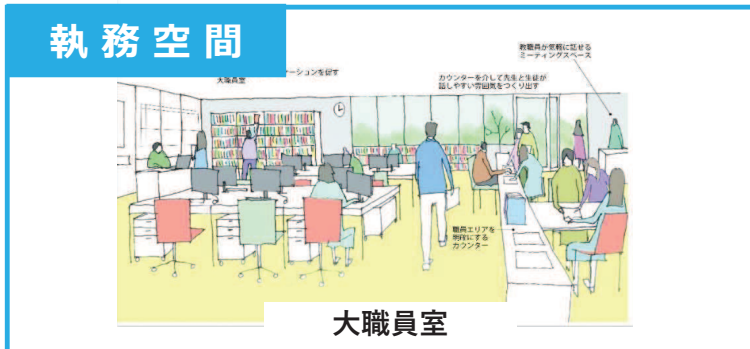
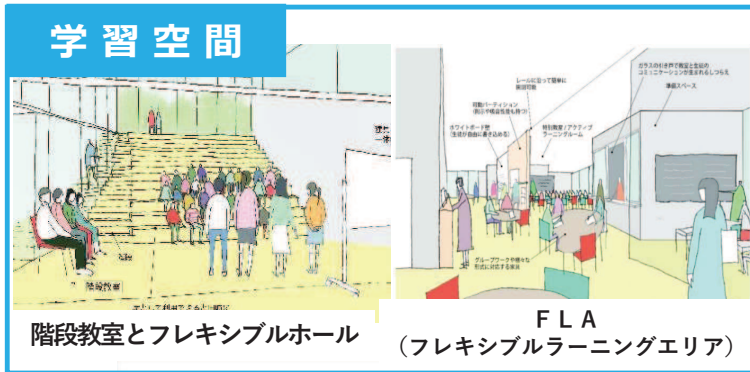
3 「学習」・「生活」・「執務」・「共創」という4つの要素に整理

空間の「質」：子どもたちが生き活きと過ごす空間

4 機能性と快適性、空間の「重ね使い」、屋外とのつながり、家具などの重要性

地域と共生する学校：地域にとってのかけがえのない拠点施設

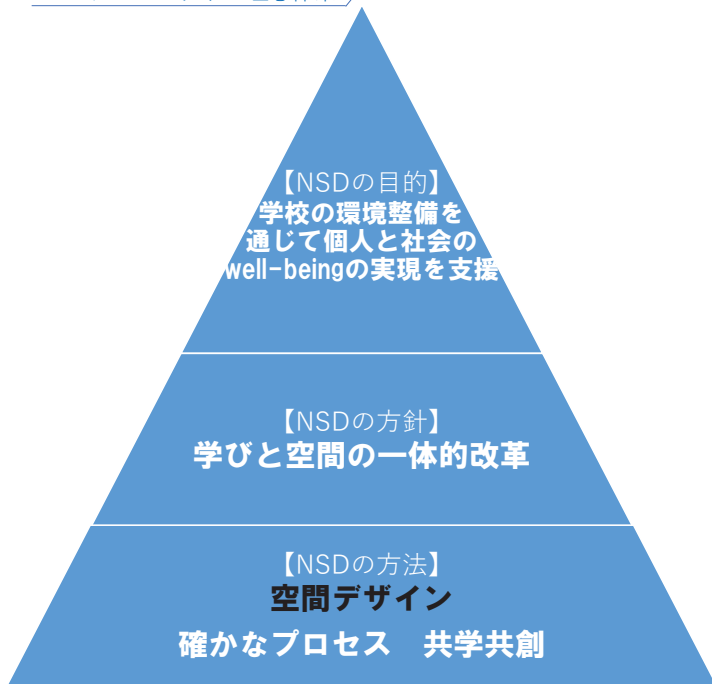
5 県の多様な自然環境・地域性を考慮、地域施設との連携や役割の分担を検討



NSDプロジェクト

「学校づくり・ひとづくり・地域づくり」

NSDプロジェクトの理念体系



【NSDの目的】

『学校の環境整備を通じて個人と社会のwell-beingの実現を支援』

長野県教育委員会が目指しているのは、『個人と社会のwell-beingの実現』すなわち、一人一人の多様な幸せとよりよい社会の実現。
NSDは、多様な価値観を持つ誰もが、激変する予測不能な社会の中でも柔軟に対応しながらよりよく生きていけるために、学びの質の向上と学び続ける個人と社会を支援していきます。

【NSDの方針】

『学びと空間の一体的改革』

NSDは、学びの質の向上と学び続ける個人と社会を支援するため、一人一人の多様な教育的ニーズに応える学びと空間の一体的な改革を進めていきます。
空間については、児童生徒や教員がいきいきと活動でき、地域の方々にとっても学びや交流の拠点となる豊かな空間を整備していきます。

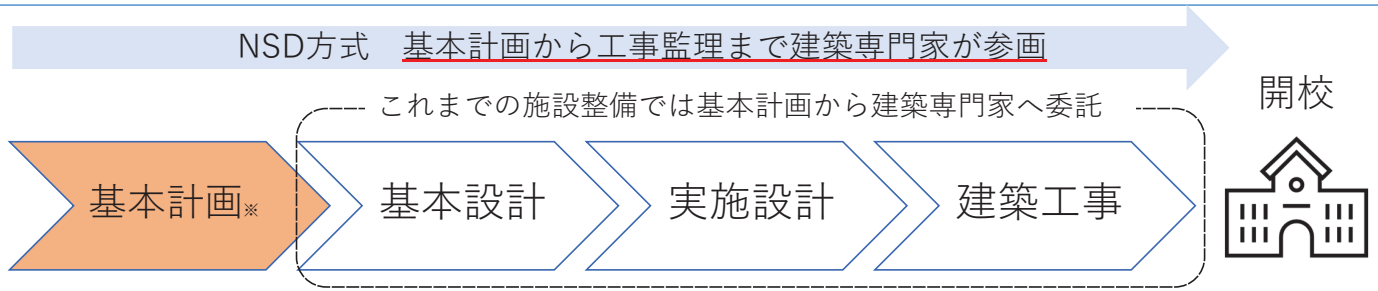
【NSDの方法】

『空間デザイン』『確かなプロセス』『共学共創』

「長野スクールデザイン2020」の提言をもとに空間デザインを行いつつ、また、ワークショップ等を通して、建築専門家と使用者となる学校や地域が意見交換を行い、使用者や建築専門家が基本計画の策定から関わるプロセスを大事にしています。

NSDを通して学校と地域が共に学び、新しい社会を共に創る、これからの時代にふさわしい学校づくりのプロジェクトを進めていきます。

NSDプロジェクトによる新校開校までの整備手順



※基本計画：設計条件を整理し、配置や平面計画、空間の構成、施設の機能・性能、コスト、スケジュール等を検討した施設整備の骨格となる方針

これまでの施設整備

- ・基本計画について、県教委及び営繕部局で策定 ⇒ 画一的な施設整備
- ・基本設計から建築専門家が参画 ⇒ 意見の反映できる幅がせまい

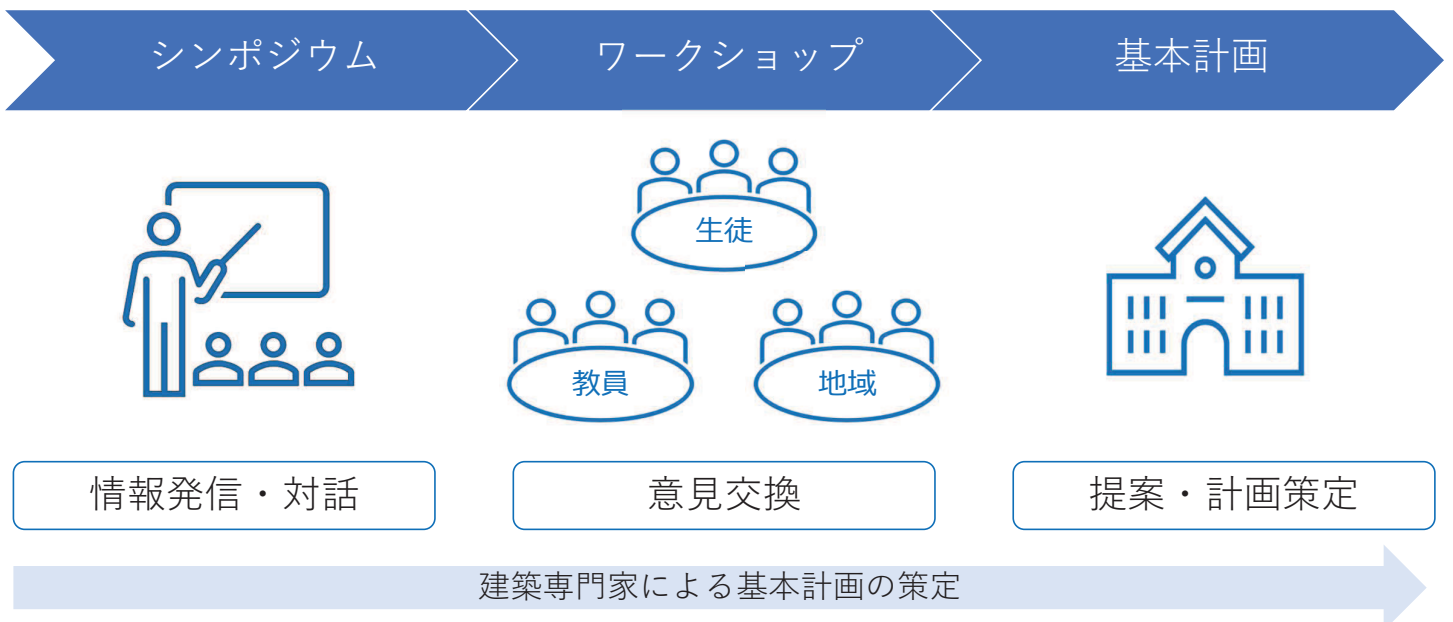
NSDの施設整備

- ・ 学校づくりの骨格を決める基本計画から建築専門家が参画し、生徒、教員、地域と意見交換
 - ・ 設計者が建築条件を早い段階から整理し、最適な配置計画及びコストコントロールを検討
- ⇒ **生徒、教員、地域の意見を設計に反映しやすく、最適な建築計画とコストで学びと空間の一体的改革を推進できるプロセス！**

基本計画策定プロセス

生徒、教員、地域と意見交換を重ね、建築専門家により基本計画へ反映

シンポジウム、ワークショップ等により、多様な意見を基本計画に反映



「総合学科の学び」

2026 塩尻志学館高校
総合学科主任 今井 直哉

高 塩尻志学館高校



2000年 長野県塩尻志学館高等学校に改称され、総合学科を開設
2011年 創立100周年 総合学科第10期生卒業
2019年 総合学科第20期生入学
2021年 創立110周年
第14回キャリア教育優良学校 文部科学大臣表彰 受賞

高 塩尻志学館高校の教育理念

一、真理の探究

一、自他の敬愛

一、責任の完遂

- ・とことん突き詰める
- ・他人も自分も大切に
- ・自分の「今」やるべきことをやり抜く

本日の内容

①志学館のキャリア教育

②科目選択

キャリア学習とは、、、

キャリア学習の定義

社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

自分の **生き方** を考え、

社会で活かせる 力を身に付ける

志学館のキャリア科目

1年次 **産業社会と人間** シオシリ学

2年次 **キャリアプランニング**

3年次 **キャリアデザイン**

総合研究

前期（4～9月）

- ✓ **コミュニケーションのワーク**
- ✓ **視野を広げるための講演会**
- ✓ **本校の科目の理解**
- ✓ **上級学校・企業の進路学習**
- ➔ **視野を広げ、科目選択に繋げる**

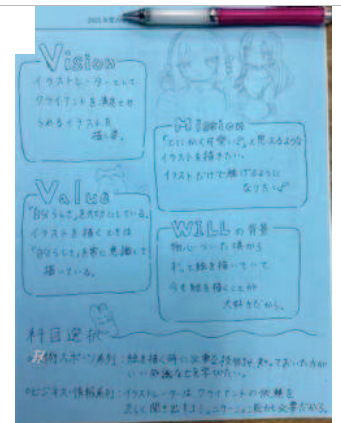
1年：コミュニケーションのワーク



私の科目選択提案書（2025）

5	14	木	6	『私の科目選択提案書』ガイダンス ワーク①「人生曲線」(p.2-3)
	28	木	6	ワーク②「偏愛マップ」(p.4-5) ワーク③「幸せの道標」(p.6)
6	4	木	6	ワーク④「will」の発掘」(p.7-8)
			7	ワーク⑤「科目選択」(p.9)
	18	木	6	『私の科目選択提案書』作成(p.10)
25	木	6	発表準備(p.11)	
		7	発表（グループ、クラス）	

1年：科目選択提案書



後期（10～3月）

テーマ「シオジリ学」

- ✓ **地域の課題**にチャレンジ
- ✓ **調べ、実践し、伝える**
- ✓ **職業や社会**について理解を深める
- ✓ **最後は全員で「学習発表会」!**

10月 フィールドワーク

シオジリ学



3月 産業社会と人間学習発表会

シオジリ学



3月 産業社会と人間 学習発表会

シオジリ学



シオジリ学

価値観の違いを支え合う力に変える
コミュニティを創出せよ

探究テーマ

Smiles&Thanksプロジェクトを通して
ありがとうを伝え合おう。



志学館のキャリア科目

1年次 産業社会と人間

前期

- ①自己理解
- ②学問・職業理解
- ③『科目選択提案書』

後期

シオジリ学

- ①自己理解、他者理解
- ②地域理解、社会参画
- ③探究学習、協働

志学館のキャリア科目

1年次 産業社会と人間 **シオジリ学**

2年次 **キャリアプランニング**

3年次 **キャリアデザイン**

探究

総合研究

『キャリアプランニング』
(2年、1単位)

(1)進路探究

進路実現の準備と目標設定

(2)総合研究 序章

総合研究に向けて探究テーマの検討、先行研究調査

『キャリアデザイン』
(3年、1単位)

(1)進路探究

志願先の研究、志願理由書作成

(2)キャリア発信

マナー講座、模擬面接、グループディスカッションなど

(3)未来志向

考え方や在り方を広げる



3年：キャリアデザイン



『総合研究』 (3年、2単位)

・各系列に分かれて実施

選択授業の1講座として、7系列12分野で実施。

・個人探究

1人1テーマを設定し、個人で取り組む探究活動。

・総合研究発表会 (1月)

各系列の代表による発表会と、有志生徒による運営。

3年：総合研究



研究動機

子どもが好き!

↓
小児科看護師になりたい!

↓
「小児看護」×「遊び」

↓
「子どもの発達」



志学館のキャリア教育 まとめ

- ・ 自己理解を深められます。
- ・ 様々な体験により視野を広げられます。
- ・ 3年間で体系的・発展的に学べます。
- ・ 探究を通して社会で生かせる力を育てます。

普通科がオモイ

本日の内容

①志学館のキャリア教育

②科目選択

1. 総合学科とは？
普通科・専門学科 との違い

・普通科で学べることは全て学べます

**国、社、数、理、
英、芸、体**

・専門学科の学びもあります



様々な進路に
対応できます

国立大学・私立大学
短大・専門学校
就職・公務員

1. 普通科・専門学科 との違い



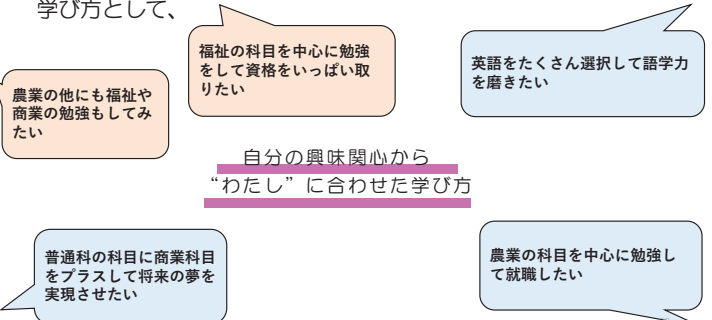
選択できる幅が広いから
あなたに合わせた学び方ができる！

特色ある「7系列」

系列名	目標
人文	人文・社会科学分野の基礎を学び、人間、社会、外国語、文化について理解を深める。
理数	自然を科学的に探究するための基礎知識や理論を学び、科学的な自然観を育む。
芸術スポーツ	芸術やスポーツを通して、情操と健全な心身を育み、豊かな人間性を培う。
農業科学	農作物の栽培や食品加工を通し、自然と人間のかかわりについて、体験的に学ぶ。
生活文化	家庭や地域の生活を、総合的にとらえ主体的に創造する力を育む。
生活福祉	私たちの社会や暮らしに関する福祉の理念と意義などを体験的、実践的に学ぶ。
ビジネス・情報	情報処理や企業会計などを学び、ビジネスにおける情報活用能力と経営能力を高める。

1. 普通科・専門学科 との違い

学び方として、



あえて、「科目選択」で悩んでもらっています。



真剣に自分と向き合う、そして新しい発見も

そのために、、、

「キャリア学習」 と 「科目選択」

に力を入れています。

32

進路（出口）に縛られない 学び方

進路目標が明確
(志学館でやりたいことがある！)

進路実現を
志学館で！

進路がまだわからない！

そういう人のための
「総合学科」です！
大歓迎です！

途中で変わりそう！

33

科目選択のまとめ

- ・普通科の科目は学習できます。
- ・専門科の学びもできます。
- ・進路が明確な人は、より専門的に学べます。
- ・進路が明確でない。そんな人こそ「大歓迎」です。

→ 悩みながら、迷いながら自分を探す、そんな学び方ができます。

普通科から専門科へ

34

ただし、、、

- ・施設・設備には制限がある（受講可能者数）。
- ・教員数にも定数がある（開講講座数）。
- ・受けられる授業数（コマ）にも限りがある。
- ・敷地内での移動が増える。

普通科から専門科へ

35

普通じゃないから オモシロイ



志学館高校 キャリア学習



志学館キャリア学習 ブログ

36

ワークショップの進め方

テーマ

「総合学科の学びと、それを支える学校施設の在り方」

「学び」とは、勉強だけでなく、部活動や行事など学校生活すべてを通して成長していくことです！

1 ワークショップの目的

総合学科は、生徒一人一人が自分の興味・関心や進路に応じて

「自分で時間割をつくること」や「探究的な学びを行うこと」が特長です。

このワークショップでは、「総合学科ならではの学び」から「それを支える学校施設」を考え、今後の施設整備や学びのイメージの具体化につなげることを目的とします。

専門的な知識は必要ありません。日頃感じていること、率直な意見を出してみましょう！

2 ワークショップのやり方（所要時間：約 30 分）

指示に従いますグループを6つ作ります。1グループは5～6人です。名簿のグループ番号を確認してください。

STEP1：アイデアを考える！（目安 20 分）

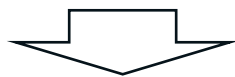
① 学びのイメージを見ながら、取り組んでみたい（もらいたい）学びやいろいろな活動を思いのまま、自由に付箋 ■ に書いて模造紙に貼ってみましょう。同じ内容は付箋を集めてグループ化してみてもOK。👍。

例えば・・・選択授業、探究学習、話し合い、発表、地域連携、部活動、委員会、進路相談 など

② ①で書き出したものを実現するために必要だと思う施設や空間を付箋 ■ に考え書き出してみよう。

例えば・・・可変型教室、協働学習スペース、発表の場、地域と交流する空間、自習スペース、憩いの場 など

③ ■ の付箋と ■ の付箋を線で結んだり、円で囲ってみましょう。



STEP2：アイデアを共有しよう！（目安 10 分）

- ・ほかのグループをみんなで順番に回って（グループ1→6）どんな活動が行われたか見てみましょう。
- ・グループの代表メンバーに活動の様子を簡単に話してもらいみんなで共有しましょう！

3 このワークショップで大切にしたいこと

- ・正解・不正解はありません！
- ・立場の違いを尊重し、自由に意見を出しましょう！
- ・「建物の話」だけでなく、「どんな学びが、どんな場所で
行われるか」を意識してみましょう！

一人一人の視点が、新校のこれからを形づくります。

ぜひ、率直な意見を聞かせください！

